

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人全隆会 指宿みどり館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県指宿市東方7521番地3号
記入者名 (管理者)	前原 むつみ
記入日	平成 21 年 3 月 30 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者様一人ひとりを尊重し、日々の生活が安心して送れるようにと理念にかかげ基本理念を作り支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に取り組めるよう視野にはいるような場所に掲示し、定例会議等で具体的に話をし、共有している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方とは、運営推進会議の時に説明したり地域の行事等に参加させていただいているので理解ができていると思っている。ご家族の方には入居前に説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝・夕散歩時に近所の人とお会いしたら笑顔で挨拶し、その人それぞれの話題で話をし、日常的なおつきあいしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや敬老運動会には参加させていただいている。また、月一回のリサイクル回収にも協力できるよう努めている。	○ 地域の方との交流の場を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的にはないが、ひとり暮らしの方宅に訪問して話し相手になったり話し相手になってもらったりして親交を深めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議で自己評価を見直し補足や改善策を検討したり、外部評価を活かして改善に努めている。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で当館での取り組み状況を報告し、委員の方々の意見やアドバイス等をいただいて、実践可能な部分は即実践しサービスの向上に努めている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会を定期的に行って、市の担当者や他ホームの方との意見交換や情報交換をして、質の向上に取り組んでいる。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し、スタッフ会議で勉強会をして知識の習得に努めている。	○ 必要な人が出てきたら活用し支援できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の資料を参考に内部研修を行い、虐待となりうる行為を確認し、日頃から防止に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族には十分な説明を行い、理解・同意を得るようにしている。解約の際には、他事業所と連携を図って、利用者様やご家族が安心して生活できるように支援している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご不満・苦情が出た時は、介護記録に会話をそのまま記載し、スタッフ会議等で原因究明をして、利用者様やご家族の方が納得のいくような対応を心がけている。運営推進会議でも報告している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時等にご家族へ報告している。それ以外に、金銭報告や個々の近況報告も同時に行っている。また毎月発行する「みどり館便り」でも伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、家族会や訪問時に声かけを積極的に行い、本音で言えるような関係づくりに努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事や設備の面で不備な所の要望は、積極的に稟議書を提出し、可能な限りほとんど許可している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様やご家族の状況の変化に応じて、出勤人数を調整したり、その日の状況で休憩時間の変更をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職の場合か何らかの資格を取得した場合の配置転換以外の異動はない。配置転換の場合でも介護と熱達した者を採用している。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得などを勧め、より高い知識・技能を身につけるように内外の研修会や会議にも参加するように勧めている。	○ 隣接の老健の行事（敬老会やクリスマス会など）に同時に参加したりしているが、老健での勉強会や研修会での参加を勧めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、ネットワーク作りや勉強会は、個人的にも参加を進め、業務指示、指導によって参加を勧めている。	○ 他の施設の見学などをもっと積極的にして直接に見聞することは大切であろう。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	感染症に対するストレスが最近では大きな問題になっており、法人内での研修会、勉強会とその対応、準備を整えている。職員による親和会の花見など。	○ 対人関係のストレスには特に問題ないようである。緊張の持続なので時にはホッとできるような慰労会も考えている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を目標としてスタッフ全員が勉強する雰囲気づくりや指導、教育がなされており成果はあがっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初対面の時は、ご本人の話を同じ目線で傾聴し、安心していただけるよう心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っていること、悩んでいること等を十分に聴きご家族の立場になって対応している。また、言えるような雰囲気作りもしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やご本人にとって最善の解決策を話し合ったり、必要によって他のサービスの紹介もしている。定期的に現状況の把握にも努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前にご本人やご家族と面会し情報収集をして、利用者様が馴染めるような環境作りを職員間で話し合い、ご本人が安心してサービスを利用できるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊重しながら、畑仕事や季節折々の料理等を、職員も参加し教えていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく 関係を築いている	利用者様の日頃の状況を定期的に便りに出したり、面会に来られた際に報告したりして、ご家族と一緒に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、 より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の気持ち、家族の気持ちを尊重し両者の良い関係を築いていけるよう支援している。利用者様・ご家族の思いや状況を見極め、外出や行事等の参加をしていただき良い関係を築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が行きたい場所等、事前に聞いて行けるよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう に努めている	日々の生活の中で利用者様が孤立しないよう職員が間に入り、楽しく過ごせるよう場面作りなどを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な 関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断 ち切らないつきあいを大切にしている	退居先へ訪問し、現状況を聞いたりご本人と会話をしたりしている。ご家族の方からも話を聞いたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で意思表示のできる方には、声かけをして把握に努めている。把握の困難な方へは、本人の表情・行動・言動を観察し把握している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方やご本人または、関係機関等に話を聞きサービス利用の経過等の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で情報を交換しそれぞれの角度から見て共有できるようにしたり、ご本人の行動力や会話の状況を記録に残して把握するよう努めている。	○ 申し送り簿をもっと活用していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族との交流の時に要望や意見を聞いて作成している。ケアプランは、ご本人やご家族からの意向を伺いスタッフからの情報も得て作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者様の状態の変化が見られた場合には、カンファレンスを行いケアプランを変更したりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等は、個人記録へ記入し気づいた事は気づきノートに記入し情報の共有を行い、介護計画に役立てている。入浴時の身体の変化等もノートに記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時や電話連絡時にご家族の状況・要望等を聞き、一緒に考え話し合っって必要な支援を行えるようにしている。(病院受診・買い物・畑仕事等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々、民生委員や消防、ボランティアの方々等に協力をいただきながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者とは情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎月の機関紙をお届けし、情報交換や相互協力等の連携を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望があればかかりつけ医を受診できるように支援し、かかりつけ医とは、近況を報告し指導をいただきお互いに情報を共有している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご本人・スタッフの話を聞き状況に応じた適格な指示・助言をしてもらっている。利用者様が安心して受診できるよう事前に説明している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の看護師が定期的に訪問し、健康管理や指導、ケアに関する相談を行って連携をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員ができる限り面会に行き、状況を把握し利用者の方が不安にならないようにしている。定期的を受診しているので情報交換はできている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者家族が安心してサービスを利用できるように急変時のマニュアルは作成している。ご家族の意向も聞いている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現段階では、終末期のマニュアルを作成しご家族や利用者様の希望にこたえられるようにしている。今後変化することは理解しているが、備えて積極的な準備は行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族やご本人には十分な説明や移行先へ訪問して不安な解消をしていただくよう状況、習慣、好み等詳細にわたって伝えている。環境の変化に伴う不安や認知症のダメージに留意しご本人との面会もし安心してもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の生活歴を十分に理解し、過ごしやすい環境作りや言葉かけ、対応等には注意を払っている。個人情報の取り扱いにも注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様お一人おひとりに合わせ働きかけを変えている。場合ごとに利用者様が自己決定できるような働きかけをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れや時間は決まっているが、利用者様の希望や状態に合わせて起床、入浴時間、食事にかかわる時間等柔軟に一人ひとりのペースを保てるように支援している。	○ 状況によって勤務時間や休憩時間を変更している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個性や好みを大切にした整容の援助を心がけている。おしゃれをすることによって、生活のリズムや高揚感を与えるように支援している。本人が好む整髪剤等を使用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒にやっている。職員と共に味かげんを話しながら楽しく食事をしている。好き嫌いを見極め、嫌いなものも工夫をして食べてもらえるように支援している。	○ 職員の席はサポートの必要性やバランスを考えて決めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が望んでる嗜好品は楽しめるように支援を心がけている。買い物に行った際には、利用者様におやつ等を選んでいただいている。	
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの行動を観察しながらトイレ誘導を行っている。又、排泄チェック表を参考に排泄パターンを把握し、排泄の失敗やおむつ使用を減らすよう支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望があればいつでも入浴できるが、現段階では朝・夕食後の入浴希望の利用者様はおられない。異性の職員が介助する場合は、利用者に配慮している。熱い湯を好む方やぬるい湯を好む方と個々にあわせて調整している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の希望を聞きながら支援を行っている。居室やソファー、畳部屋など好きな場所で休んでいただいている。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯物干し、洗濯物たたみ等の家事は共同でしていただいて、達成感を味わってもらっている。畑仕事や団子作り等は、経験や知識を発揮できるよう支援している。	


項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者様はおられないが、家計簿は職員と一緒に記帳している利用者様もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って、散歩やドライブに出かけたりして気分転換を図りながら季節感も味わってもらっている。買い物や郵便物の配達などにも同行していただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	公共機関へ出かけたり地域の夏祭りや運動会の見学に行ったり夏は、家族とソーメン流しに出かけたりしている。春と秋の年2回は遠足にも出かけている。	○	バスや電車などの交通機関の利用支援もしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送ったり利用者様に手紙を書いて頂いている。ご本人の希望があれば、ご家族にスタッフが電話をかけたりまた家族からも電話がかかってくる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	行事や館内での出来事を便りに書いてお誘いもしている。また、いつでも気軽に訪問ができるよう理念である笑顔でお迎えしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については十分に教育指導されているのでその人権擁護の重大さは理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	過去において身体拘束は行われていなかったのですが、記録が不十分であった。定期的な勉強会を行う。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、メロディーチャイムをつけている。外に出られた時には、一緒に同行するようにしている。	○	地域の方が、協力していただけるような関係を今後も築いていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の精神面を感わすことがないように距離を置いて見守り、さりげない声かけと介助を昼夜行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	服薬については施錠した部屋に保管し洗剤、刃物等については目に触れない場所に保管している。夜間はガスの元栓やポットの電源は切っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アクシデントのみではなくヒヤリハットもスタッフ会議で話し合い原因究明・防止に取り組みマニュアルも作成している。転倒などの事故を未然に防げるよう家具等の配置にも工夫している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当等のマニュアルを作成しており急変や事故発生時には即、母体病院に連絡している。母体病院で訓練を行う時には参加し、応急手当の実践練習を交代で行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	どのようにすれば迅速に非難・誘導が出来るかスタッフ会議で話し合い、定期的に昼夜両方を想定し訓練を行っている。又、訓練の際には地域の方にも声をかけ参加していただいている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	安全を第一に考えているが、日々の生活の中で起こり得るリスクについては家族会や面会の際に説明している。近況報告は毎月家族の方へ送付している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	その日のバイタルの把握に努め、表情や言動の変化に気づいたら職員間で早急に情報を共有し、対処している。また、気づきノートにも記載している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書はファイルし服薬の効用、副作用に目を通し理解している。症状に変化が生じた場合には、主治医に報告し指示をいただいている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い野菜やヨーグルト等を活用し、スムーズな便通に配慮している。腹部のマッサージや散歩も取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を十分認識し毎食後、口腔ケアを行っており個々に応じて支援を行っている。舌ブラシ等も活用している。痛みを訴えない時も行動や表情を見て察知し、歯科受診をして指導を受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態によって粥や刻み食を提供したり、食の細かい方、好き嫌いの有る方には、調理法や食材を変え盛り付けバランスにも気をつけている。併設施設の栄養士に相談して助言もいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策マニュアルを作成し定期健診や予防接種を行っていたが初期対応の遅れがあった。	○	感染症対策に正しい知識対応方法の習得等の勉強会を開いていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、一日おきに買い物に行き新鮮な物を購入し調理の際は台所を整理整頓し、日付に気をつけ野菜等は加熱処理、夜間に調理器具や食器の煮沸消毒を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季折々の草花を植え、利用者様と一緒に手入れを行い、気兼ねなく出入りが出来るようにしている。玄関には和洋を取り入れ、ゆっくり腰掛けできるようベンチを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内には花を飾ったり、壁やトイレには利用者様と同年代の方から頂いた手作り作品を飾っている。天候によって館内が暗い時には電気を点け、夏場は直射日光が入らないようによしずやカーテン等で対応している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに、ソファを置き食後等くつろいでいただいている。	○	和室を利用される方が少なくなってきたので、和室での有効利用を考えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具、思い出の写真や飾り物で居心地よく過ごせる居室作りをしている。家具を見て感激される利用者様もおられる。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペース・居室は、外気温との差がないように室温・気候を配慮しながら適切に換気を行っている。発汗・冷えの状態も観察しながら温度調節や衣服での調整をしている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや家具等を利用して安全にかつ自立した生活が送れるように工夫している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を把握し、言葉使いに気をつけて混乱や失敗を招かないようにしている。個々の居室前に目印となる表札を使用している。利用者様の手作りもある。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の野菜・花の水かけや草取り等、管理をしていただき、育つ姿を楽しんでもらっている。洗濯物を干したり取り込んだり出来るよう、物干し竿の高さも調整している。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ②ほぼ全ての利用者の ③利用者の2/3くらいの ④利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ②毎日ある ③数日に1回程度ある ④たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ②ほぼ全ての家族と ③家族の2/3くらいと ④家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ②ほぼ全ての職員が ③職員の2/3くらいが ④職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ②ほぼ全ての家族等が ③家族等の2/3くらいが ④家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

※開設10年を迎え、その間の様々な体験を振り返りスタッフも気持ちを一新し利用者様に寄り添って一緒に楽しく生活が送れるように努めている。
 ※利用者様の生活歴や趣味等を把握してやりがいと自信を持っていただけるよう支援している。
 ※お風呂は温泉で利用者様や家族の方からも喜ばれている。